

## 日本信頼性学会 論文執筆要領

論文の作成に関しては以下の事項を参照し、原則としてテンプレートに従って作成すること。

### 1. 題目

論文には、正確にその内容を示す題目（和文および英文）を付けること。英文論文の場合は英文のみとする。

### 2. 著者名

和文と英文の両方を表示する。英文論文の場合は英文のみとする。

### 3. 所属機関名

第 1 頁の左の段の下方に入れる。

- ・本文の文章の下に実線で区分し、必要行数を使う。
- ・研究を行った機関名を記す。研究を行った機関名と現所属が異なる場合は、機関名の後に（ ）を付けて現所属名を（現在 ××会社）と記す。
- ・大学院生、学部学生の場合は、○○大学大学院博士前期課程○○研究科○○専攻、○○大学○○学部○○学科のように記す。

### 4. 要旨

題目／著者名の下に記載する。英文論文の場合は英文のみ、和文論文の場合は和文・英文の順に両方とする。

- ・和文は 300 字程度とする。
- ・英文は 100 words 程度とする。

### 5. 論文のキーワード

要旨の下に英文論文の場合は英文のみ、和文論文の場合は和文および英文それぞれ 5 個程度のキーワードを付けること。

### 6. 本文

#### 1) 見出しの体裁

- ・大見出し 1., 2., …などとする
- ・小見出し 1.1, 1.2, …, さらに, 1.1.1, 1.1.2, …などとする。

#### 2) 図や表にはそれぞれに一連の通し番号を付ける。

- ・図や表の番号は、それぞれ図 1, 図 2, …, 表 1, 表 2, …とする。
- ・図や表には必ず表題を付ける。
- ・図の番号とその表題は図の下に、表の番号とその表題は表の上に入れる。

#### 3) 参考文献の引用方法：引用内容の後に、著者名（姓のみ）と文献番号を記す。共著者が 2 名の場合は両者の姓を書く。共著者が 3 名以上の場合は、第 1 著者の姓に"ら"（または、et al.）を付ける。

(例 1) Yin and Silio [1]

(例 2) 山本・水野 [2]

(例 3) Miller et al. [3]

(例 4) 鈴木ら [4]

- 4) SI 単位の使用：単位は原則として SI 単位を用いる。
- 5) 謝辞：本文の最後に記す。
- 6) 参考文献：本文末にリストとしてまとめて入れる。第 1 著者名の出現順、またはアルファベット順（日本語の場合はローマ字として見た場合の順序）とする。

## 7. 論文の長さ

原則として 12 ページ以内とする。ただし、ショートノートは原則として 6 ページ以内とする。

## 8. 専門用語・記号の使用

公開後の広い読者層を想定しているため、専門性が著しく高い用語や記号を用いる際は、それらの説明等を簡潔かつ適切に記載するものとする。

## 9. テンプレートの使用

次の URL より MS Word のテンプレートをダウンロードし、論文作成に使用すること。

[https://www.reaj.jp/modules/pico/index.php?content\\_id=35](https://www.reaj.jp/modules/pico/index.php?content_id=35)

## 10. 提出

原稿を PDF ファイルとしたものを電子メールに添付して提出する。最終原稿は PDF ファイルと MS Word ファイルを電子メールに添付して提出すること。

### 11. 校正

論文の校正は著者が行う。

### 12. 参考文献記載の方法

#### 1) 雑誌

雑誌名の省略の仕方は原則として ISO に従う。

- ・記載方法：著者名（年）：題目，雑誌名，巻，pp. 初ページ-終ページ。

(例) 信頼駿夫，故障無代（1994）：“指数分布におけるエキスパート知識による信頼度表現”，信頼性，Vol. 17，pp. 123-130.

- ・和文誌は和文，外国誌はその原語で記載する。ただし，英文原稿において和文誌は英訳する。

- ・号ごとに頁が改まる場合は，巻の後に No. XX と入れる。

#### 2) 単行本

- ・記載方法：著者名（年）：書名，出版社，pp. 初ページ-終ページ。

- ・和文書は和文，外国書は原語で記す。

(例) 信頼駿夫，故障無代（1994）：信頼度予測，日科技連出版社，pp. 359-384.

#### 3) 学会講演論文集，Proceedings 等

雑誌に準ずる。ただし，CD-ROM の場合にはその旨を明記する。

(例) 信頼駿夫，故障無代（2007）：“故障データの統計的解析”，日本信頼性学会 第 20 回秋季信頼性シンポジウム講演論文集，pp. 56-64.

(例) Shinrai, S. and Kosho, N. (2003) : “Statistical Methods in Failure Data Analysis,” in Proceedings of the 2003 Annual Conference, Reliability Engineering Association of Japan, pp. 217-225.

#### 4) 特許

- ・記載方法：発明者（年），特許名，国名，特許番号。

以上

2021年12月一部改訂

2025年1月一部改訂